ご意見箱（病院への手紙）について　[令和7年11月分]

当院では、皆様からのご意見やご要望、職員に伝えたいことなどを受け付けるご意見箱(病院への手紙)を院内に設置するほか、ホームページでもご意見を受け付けています。いただいた内容につきましては、院内で情報共有し、当院を利用される方・療養生活を送る方が安心して過ごすことのできるよう活用させていただいています。

01　意見・感想

○　Wi-Fiが使えないのは不便。また、和式のトイレは必要ないと思うし、車いす用のトイレが少なすぎる

○　家族が釧路の病院から一時退院で帰ってきていた時、体調が悪くなり救急車で中標津病院に入った。当然、救急車で釧路の病院まで運んでもらえると思っていたが、「この程度の症状では救急車は使えない」「こういった状態でも途中で容体が変わって亡くなる場合もある」と言われた。結局、自家用車で釧路の病院まで行ったが、脱力がひどく、立ち上がることもできない状態で、翌日に亡くなってしまった。そのような状況だったのに、救急車が使えないとはどういうことなのか。また、医師の心無い言葉に憤慨している
非常識な医師の言葉に対してどう思うか、どのような状態であれば救急車を呼んでもらえるのかを回答してほしい

＞　この度は貴重なご意見をいただき、誠にありがとうございます。
入院病棟のWi-Fiにつきましては、現在、デイルーム周辺のみ接続できるようにしており、個々の病室までは通信が届く整備ができていません。現在、通信会社とも協議し、Wi-Fiの利用範囲拡大に伴う費用等について調査を行っており、今後の対応を検討しているところですので、ご理解をお願いします。
また、トイレの改修に関しては、これまでにも何度か要望をいただいておりますが、施設面積の関係や一時的に当該エリアのトイレが使用できなくなるなどの問題があり、現在までご要望にお応えすることができていません。大変申し訳ありませんが、ご理解くださいますようお願いします。
また、転院搬送時の言動につきまして、ご本人のみならず家族の皆様にもご迷惑をおかけし心よりお詫び申し上げます。患者の転院搬送については、緊急性や専門の治療を必要とするか否かなどを医師が総合的に判断し救急車利用の決定をしているところです。
今回いただいた内容をもとに、改めて当院を利用する皆様に寄り添った対応について周知徹底を図り対応してまいります。

02　お礼・感謝の言葉

- お産以来50年ぶりの入院でしたが、看護師さん・看護助手さんの優しさと笑顔に感心するばかりでした
- 実家に帰省したタイミングでお腹が痛くなってしまい、急な問い合わせで診てもらいましたが、池田先生はじめ看護師の皆様には大変良くしていただき感謝しています。他の部屋からも先生や看護師さんの優しい声掛けが聞こえてきており、感動するとともに癒されていました
- 家族の入院に際して、先生や病棟のスタッフの皆様には大変お世話になりました。面会の融通や声掛けなど、本人だけではなく家族にも寄り添っていただきました。本当にありがとうございました
- 担当してくれる方が子どもに優しく接してくれて、一度も泣くことがなく過ごせていました。本当にありがとうございました
- 給食がおいしかったです

＞　このようなメッセージをお寄せいただき、ありがとうございます。
職員への叱咤激励は、モチベーションの向上や職場全体の意識改善が図られる、貴重なご意見として大変うれしく拝見しています。
これからも安心して当院で治療を受けていただけるよう、職員一丸となって対応していきたいと思いますので、よろしくお願いします。